

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：14201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02789

研究課題名(和文) 日本版ギフトドを定義する 才能児の実態把握と基礎資料の収集

研究課題名(英文) Understanding the reality of gifted children in Japan and collecting basic data

研究代表者

林 睦(近藤睦)(Hayashi, Mutsumi)

滋賀大学・教育学系・教授

研究者番号：40402698

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：特別支援教育が始まって以来、発達特性のある子どもたちの支援が進められてきているが、同年齢の子ども達と比較して特異な才能のある子ども達もまた、不登校などの学校不適応の問題を抱えやすいことが知られている。本研究では、特定分野に特異な才能のある子ども達やその保護者を対象とし、心理療法の一種である箱庭療法体験がもたらす支援的、予防的効果の評価を行った。ギフトド支援団体に所属する小中学生10名の子どもとその保護者を対象とし、二次元気分尺度(活性度及び安定度を測定)を用いて箱庭実施前後の気分の変化を評価した。その結果、単回の箱庭体験が、特異な才能をもつ親子にポジティブな影響を及ぼす可能性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

特異な才能を持つ子どもたちは、日常生活、特に学校生活において、多くの困難を抱えていることが示唆された。対象者全員が学校生活で困難を抱えており、半数程度の子どものが不登校(傾向)にあった。特に不満が高かったのは、レベルに合わない内容の勉強を強要されること、待ち時間の退屈を紛らわさねばならないこと、興味関心がある課題に対して自由に探究することが許されない画一的な環境への適応の難しさ、などであった。友達が叱られるのを見るのがつらい、音や光がつらい、偏食が激しいなど、刺激に対する過敏さに困難を抱える事例も多くあった。知的には高いため、周囲の理解や支援を得ることが難しい状態に苦悩する親子の実態が示された。

研究成果の概要(英文)：Since the start of special support education, support for children with developmental characteristics has been promoted. However, it is known that children with specific talents compared to children of the same age are also more likely to have problems with school maladjustment, such as truancy. In this study, we evaluated the supportive and preventive effects of a sand play therapy experience, a type of psychotherapy, on children with unique talents in specific areas and their parents. Ten elementary and junior high school children belonging to a gifted support group and their parents were included in the study, and changes in mood before and after the implementation of the sand play therapy were evaluated using a two-dimensional mood scale (measuring activation and stability). The results suggest that a single sand play therapy experience may have a positive impact on parents and children with specific talents.

研究分野：特別支援教育

キーワード：ギフトド 2E 才能 特性

1. 研究開始当初の背景

特別支援教育が始まって以来、学校教育において発達特性のある子どもたちの支援が進められてきているが、同年齢の子ども達と比較して特異な才能のある子ども達もまた、不登校などの学校不適応の問題を抱えやすいことが知られている。世界ではそういった子ども達への教育的配慮が進んでいるが、日本においても2022年6月に、「特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議」が文部科学省初等中等教育局長の下に設置され、議論が始まっている。そして、「特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議審議のまとめ 多様性を認め合う個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の一環として」(文部科学省、2023)の報告において、「児童生徒を特定の基準で選抜し特別なプログラム等を提供することを目指すものではなく、特異な才能のある児童生徒を含む全ての子供たちが多様性を認め合い、高め合える個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の一環として指導・支援の在り方を考えていく」ことを基本理念とし、「特異な才能のある児童生徒についても、その才能や特性ゆえに学校で著しい困難を抱えている場合に、その困難に着目し、その様子と周囲の環境との相互作用を考慮しながら、困難を解消するとともに才能を伸ばしていくこと」が必要であるとされている(文部科学省2023)。

特異な才能のある子どもたちの多くは、集中力のアンバランス、対人関係の問題、学業達成のアンバランスといった問題を抱え、学校生活においてストレスが大きく、二次的に不登校(傾向)といった行動上の問題や、心身症的な問題を抱えている。現在文部科学省で議論されている通り、こういった子ども達の学びの場を整えることは急務であるが、それと併せて二次的な心理的問題の予防、支援の必要性があると考えられる。

箱庭療法は、1929年イギリスの小児科医 M. Lowenfeld が世界技法 (The World Technique) として発表したものを、スイスの D. Kalf がユング心理学を基盤として「砂遊び療法 (Sandplay Therapy) として発展させたものである。国際箱庭療法学会 (<http://www.isst-society.com>) が設立されて、心理療法の一技法として世界中に広がりっており、わが国にも1965年に河合隼雄により導入され(河合, 1969)、1987年に日本箱庭療法学会 (<http://www.sandplay.jp/index.html>) が設立されている。言葉によらないイメージや象徴表現を用いた心理療法で、心の深層に作用する治癒効果が世界各国で確認されている。解釈優位ではなく、治療者の見守りのもと、クライエントの内的イメージの流れを守り育む治療的意義が重視され、言語発達が未熟な子どもに適したセラピーとされている。2000年に厚生省(現厚生労働省)が被児童虐待児対策として箱庭療法の導入を促進したことを受け、毎年2回の全国研修会ならびに毎年1回全国6地区単位の箱庭制作実習研修会が継続的に開催されている。

自閉症児90人を対象とした研究では、介入群において有意に生活満足度得点と陽性感情得点が上昇し、陰性感情得点が低下し、箱庭療法が自閉症児の症状を改善し、精神的健康を促進すると結論付けられている(Guo & Li, 2021)。52組の自閉症親子に親子箱庭療法を実施した研究では、箱庭療法が育児ストレスを減少させ自閉症児の社会的相互作用と睡眠の質を改善する可能性があることが示唆されている(Liu et al., 2023)。

2. 研究の目的

本研究は、特定分野に特異な才能のある子ども達やその保護者を対象とし、心理療法の一種である箱庭療法体験がもたらす心理的問題に対する支援的、予防的効果の評価を行うことを目的とした。

3. 研究の方法

ギフトッド支援団体に所属する小中学生10名(小学生9名、中学生1名:男子6名、女子4名)の子どもとその親を対象とし、子ども及び希望する親に対して箱庭作成体験を実施した。親子一組につき約2時間の時間を設定し、心理職の資格をもつ専門家2名が、それぞれ親子の担当として付き添った。なお、研究参加に際しては、子ども及び保護者の同意をそれぞれ書面で取得し、研究倫理委員会の承認を得て行われた。

子どもには全対象に箱庭作成体験を実施し、箱庭作成前後に二次元気分尺度(活性度及び安定度を測定)を用いて、箱庭実施後の気分の変化を評価した。さらに実施後に体験感想シートによる印象評価を実施した。また子どもが箱庭作成をする間、親から日常生活での困難などについて聞き取り、箱庭作成を希望した親(8名)には、子どもと同様に実施前後評価と印象評価を行った。

4. 研究成果

(1) 子どもの効果評価

まず、二次元気分尺度において、実施前後の活性度得点の平均の差は有意であり($p = .006$, $d = -1.15$)、安定度平均得点の平均の差は有意ではなかった($p = .107$, $d = -0.57$)。

次に印象評価において、箱庭体験が「楽しかった」と答えた対象は100%、「心が落ち着いた」

と答えた対象は70%、ストレスが減ったと答えた対象は70%、「自分に役立つ」と答えた対象は60%、「また作ってみたい」と答えた対象は90%であり、概ね肯定的に評価された。自由記述による子ども達からの感想には、「面白かった」「作るのが楽しかった」「心がすっきりした」「自分の思い通りに作れた」「ストレス解消」「大人になってからこれつくれてよかったなーみたいなん思いそう」とのポジティブな記載があった。ネガティブな感想としては、「～があったらよかった」など、自分の思い通りのアイテムがなかったことに対する不満が見られた。

(2) 親の効果評価

まず、二次元気分尺度において、実施前後の活性度得点の平均の差は有意であり、($p < .000$, $d = -2.26$)。安定度得点の平均の差も有意であった ($p < .000$, $d = -2.70$)。

次に印象評価において、箱庭体験が「楽しかった」と答えた対象は90%、「心が落ち着いた」と答えた対象は80%、ストレスが減ったと答えた対象は60%、「自分に役立つ」と答えた対象は80%、「また作ってみたい」と答えた対象は90%であり、概ね肯定的に評価された。

自由記述による箱庭体験の感想では、「自分の内面に触れることができた」「無心になれた」「人形を置いていだけなのに自分の気持ちを表現できるのがすごいと思った。内側から出てくるものがあった」「コメントをもらい、自分の無意識的な部分、知らない面が見えた気がした。1年後くらいにまた作ってみたい」「ぼやけていて輪郭のなかったイメージが顕在化した。やっぱりこういうことを感じていたんだなと思った」「テストではないということがよくわかった。思っていることが表現できて、カウンセリングを体験したよう。落ち着いたところがある」といった記述が得られ、普段ストレスの多い親にとっても、箱庭体験が自己理解の深まり、リラクセスやストレス解消に寄与したことが示唆された。

体験全体へのフィードバックとしては、「話を聞いてもらってほっとした。子どもも楽しんでいたし、連れてきてよかった」「娘も私も、とても楽しみにしていた。普段思っていることを、お話しできて安心した」「先生と色々な話をさせてもらって、なるほど!と思うことが多くあり、箱庭ってすごいなあと思った。とてもいい体験ができた」「落ち着いた空間で、自分の気持ちに向き合うひとときが持てる貴重な機会をいただいた」「箱庭体験、先生とのお話を通して、気持ちがとても楽になった。また日々なやむこともあるかもしれないが、今日のこと思い出して子供を理解してあげようと思う」といった意見が得られた。

(3) 子どもたちの抱える困難

対象全員が学校生活で困難を抱えており、学校に行くことを「嫌だ」「楽しくない」と感じており、半数程度の子どもの不登校(傾向)にあった。特に不満が高かったのは、レベルに合わない内容の勉強を強要されること、待ち時間の退屈を紛らわさねばならないこと、興味関心がある課題に対して自由に探究することが許されない画一的な環境への適応の難しさ、などであった。友達が怒られるのを見るのがつらい、音や光がつらい、偏食が激しいなど、刺激に対する過敏さに困難を抱える事例も多くあった。知的には高いため、周囲の理解や支援を得ることが難しい状態に苦悩する親も多く、「こんなに理解してもらったの初めて」「こんなふうに、子どもがあるがままに認めてもらえる場が地域があればいいのに」と涙される親もいた。

以上より、対象とした特異な才能を持つ子どもたちは、日常生活、特に学校生活において、多くの困難を抱えていることが示唆された。箱庭作成体験後に子どもたちの活性度得点が有意に上昇し、ほぼ全員が印象評価において「楽しい」「また作りたい」と答えており、子どもたちにとって楽しさや活性度の上昇する体験となったことが伺われた。一方で安定度は変化せず、「落ち着いた」「ストレスが減った」対象も70%にとどまった。今回は一度だけの体験であり、初めての場所に緊張や興奮を感じていた子ども達も多かった。継続実施により、心の安定化に寄与できるかどうか、今後検討が必要であろう。

保護者に対する効果は非常に大きく、箱庭作成により活性度も安定度も共に大きく上昇した。人に相談しにくく理解されにくい子どもの問題にストレスを感じている保護者も多く、短時間でも受容され、理解される時間を提供することが大きな支えとなることが示唆された。

本研究により、単回の箱庭体験であっても、特異な才能をもつ親子にポジティブな影響を及ぼす可能性が示唆された。今後、統制群を用いたランダム化比較試験や、継続実施による効果などを検討することが望まれる。

【引用文献】

河合隼雄. (1969). 箱庭療法入門. 誠信書房

Guo, J., & Li, D. (2021). Effects of Image-Sandplay Therapy on the Mental Health and Subjective Well-Being of Children with Autism. *Iranian Journal of Public Health*, 50(10), 2046-2054.

Liu, G., Chen, Y., Ou, P., Huang, L., Qian, Q., Wang, Y., He, H.-G., & Hu, R. (2023). Effects of Parent-Child Sandplay Therapy for preschool children with autism spectrum disorder and their mothers: A randomized controlled trial. *Journal of Pediatric Nursing*, 71, 6-13.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	芦谷 道子 (Ashitani Michiko) (70452232)	滋賀大学・教育学部・教授 (14201)	
研究分担者	隅田 学 (Sumida Manabu) (50315347)	愛媛大学・教育学部・教授 (16301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------